

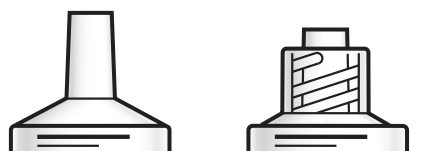
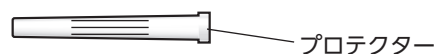
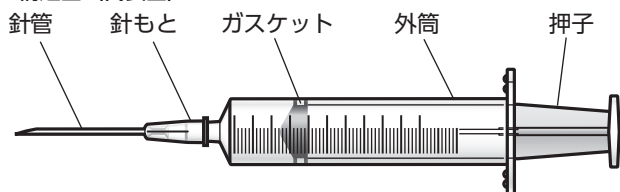
# テルモシリンジ注射針付

## 再使用禁止

- \* **【禁忌・禁止】**  
＜使用方法＞
- \* 再使用禁止、再滅菌禁止

### \* 【形状・構造及び原理等】

＜構造図（代表図）＞



スリップタイプ (ST) ロックタイプ (LT)

### \* 血液・体液に接触する部分の原材料一覧

部品名	原材料
針管	ステンレス鋼
針もと	ポリプロピレン (PP)
ガスケット	エラストマー
外筒	PP
潤滑剤	シリコーン油

＜原理＞

- \* 本品は、ルアーテーパーを有する注射針と注射筒をあらかじめ合わせた滅菌済みの汎用針付注射筒であり、そのまま直ちに薬剤の投与又は採血等に使用できる。

### 【使用目的又は効果】

＜使用目的＞

注射、輸血、採血

### 【使用方法等】

1. 本品を包装から取り出す。
  2. 穿刺部位を消毒する。
  3. プロテクターをまっすぐ引いて外す。
  4. 穿刺部位に穿刺し、注射、輸血、採血を行う。
  5. 針を抜去後、必要な場合は、止血する。
- ＜使用方法等に関連する使用上の注意＞
1. プロテクターを外す際は、針先がプロテクターに触れないように注意すること。[針先が変形し、切れ味が悪くなる可能性がある。]
  2. 針管に直接手を触れないこと。[針刺し、感染の可能性がある。]
  3. あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。

4. 本品をバイアルや輸液剤容器のゴム栓に刺通する場合は、以下の事項を順守すること。
  - (1) ゴム栓にゆっくり、まっすぐ刺通すること。また、同一箇所を繰り返して刺通しないこと。[刺通部位がくり抜かれ、針管内に詰まりが生じる、又はゴム片等が混入する可能性がある。]
  - (2) ゴム栓に対し斜めに刺したり、刺通中に横方向の力を加えないこと。[針管又は針もとに曲がりや破損が生じる可能性がある。]
5. アンブル等の薬液容器壁面に針先が当たらないように注意すること。[針先が変形し、切れ味が悪くなる可能性がある。]
6. シリンジポンプを使用する場合は、以下の事項を順守すること。
  - (1) シリンジポンプのメーカーに適用の可否を確認すること。
  - (2) シリンジポンプの電子添文及び取扱説明書を確認後、使用すること。
  - (3) 輸液開始時には、輸液状態（シリンジの動作状態、薬液の減り具合）や穿刺部位を必ず確認すること。また、輸液中にも、巡回時等定期的に同様の確認をすること。
  - (4) 微量注入で使用する場合は、輸液ラインの閉塞の発生がないこと等、輸液状態に特に注意すること。[設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間輸液が中断する場合がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。]
  - (5) 薬液は室温になじませてから使用すること。[冷えたまま使用するとシリンジの押子の摺動抵抗が増加し、閉塞警報が多発する原因となる。]
7. 本品に衝撃を与えないこと。[破損する可能性がある。]
8. 接続部分に薬液又は血液を付着させないこと。[接続部の緩み等が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。]

### 【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
2. 針もとに過剰な負荷をかけないこと。[針管又は針もとが破損し、薬液、血液等が漏れる可能性がある。]
3. リキャップする必要がある場合は、針刺しを防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて、プロテクターをまっすぐに被せること。[プロテクターを傾けて被せると、針管がプロテクターを突き抜ける可能性がある。]
4. 医薬品の種類によっては、本品の外筒の内側に塗布されているシリコーン油が析出することがあるので注意すること。シリコーン油が析出した場合は、医薬品の電子添文を確認し、適切な処置をとること。
5. ガスケット部に注射針等で傷をつけないこと。[破損が生じ、液漏れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。]
6. 外筒印刷部の目盛を越えて押子を引かないこと。[押子が外筒から抜けて液漏れが生じる可能性がある。]
7. 押子はまっすぐに引くこと。[斜めに引くと、ガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れ、空気の混入又はガスケットが外れる可能性がある。]
8. 本品を鉗子等でつまんで傷をつけないこと。[破損が生じ、液漏

- れ、空気の混入を引き起こす可能性がある。]
9. 外筒部を強く握るなど、圧迫するような力を加えないこと。[圧迫すると、ガスケットと外筒との密着性が悪くなり、液漏れ、空気の混入が生じる可能性がある。]
  10. 外筒印刷部の目盛をこすらないこと。[目盛が消える可能性がある。]
  11. 造影剤等の高圧注入には使用しないこと。[液漏れ又は破損する可能性がある。]
  12. 外筒印刷部に薬液がついた状態で放置しないこと。[印刷が剥離する可能性がある。]
  13. ヘパリンロック等の操作を行う場合は、血液をカテーテル内に逆流させないようにシリンジの操作に注意すること。[ヘパリン等を注入後、押子から手を離すなど押す力を緩めると、静脈圧やシリンジの構造上の特性により押子が押し戻され、血液がカテーテル内に逆流し、ヘパリン量と濃度、及びロック時間等の条件によっては凝血する可能性がある。特に押子を最後まで押し切った後に押子を押す力を緩めると、逆流量が大きくなる。]
  14. 押子を繰り返し前後させるなどの操作を行う際は、押子を汚染させないように、清潔な手袋を着用するなど、十分注意して操作すること。[押子を経由して外筒内が細菌汚染する可能性がある。]
  15. 冷えた薬液を吸引し使用する場合は、取り扱いに注意すること。[低温下では耐衝撃強度が低下し、破損する可能性がある。]

#### 【保管方法及び有効期間等】

##### <保管方法>

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

##### <有効期間>

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

#### \*【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

\* 電話番号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

